

第 78 期第 2 回男女共同参画推進委員会議事録

日 時：2022 年 9 月 29 日(木)10：00～12：15

場 所：オンライン会議 (Zoom)

参加 (略敬称)：門、肥山、板橋、岩崎、大畠、小林、所 (10:30 から)、野中、濱口、服部 (10:15 まで)、溝川、中本、市川、細越

欠席 (略敬称)：永江、板倉、野尻

資料：

1-1_女子中高生夏の学校 2022 報告(阪大_服部)

1-2_20220929 男女共同参画教育委員会夏学 2022 実験報告 kado

2_Activities of Gender Equality Promotion Committee in the JPS_1

5_男女共同参画推進委員会規則変更案

6_2023 予算案(男女)

8_ランチョンミーティング資料_2022-09-29_v1

議題：

1. 女子中高生夏の学校 (2022/8/7-8 online 参加報告/全体報告：服部、ポスター報告：溝川、実験報告：門)

以下の通り報告された。

全体報告：

26 都道府県、45 団体、115 名の生徒が参加し、無事終了した。積極的な質問等が見られ物理学会の活動もアピールもできた印象であった。

ポスター報告：

オンライン開催だったが、現地開催よりも気楽に相談してもらえた印象であった。現地、オンラインそれぞれの良さがあるが、緊張せずに質問をしてもらえる利点は大きい。

→来年はハイブリッドで 2023/8/5-7 予定。

実験報告：

オンライン開催のため、書画カメラで講師の手元を映して配信するなどの工夫を行った。実験中は生徒がどれくらいできているか分からなかったが、10 人中 3 人が未完成であった。フォローアップしたかったが生徒からは完成品との交換希望はなく終了した。

以下、質疑応答が行われた。

- ・セッションはパラレルの開催かと思うが、参加生徒は順繰りに回れるのか、それとも、決められたセッションに参加していたのか。
→どちらもあったので、事前練習会を行いスムーズに運営できるよう取り組んだ。ポスターは基本的にはまんべんなく見聞きできるような構成にしていた。
- ・実験で未完成の生徒さんへのフォローが9月に入ってからだったが、もう少し早めの対応は可能だったか。
→コンタクトはとっていたのだが、返信がなく、どこまで連絡を取るかを検討したりしている間に9月になってしまった。今後は運営側でフォローアップの手順やルールも組んでおいてもらえるとよいかもかもしれない。

2. 日物・応物連絡会 (2022/8/21-26 APPC15 online 参加報告：小林)

資料の内容で発表を行ったことが報告された。また参加者からの反応として、特に夏学について興味を持たれたこと、質問に門先生がコメントしたところ「あなたのような男性がやるのか」という質問が出たことが報告された。

3. 学協会連絡会 (2022/10/8 シンポジウム参加予定報告：浜口)

シンポジウム参加に向け、浜口先生、小林先生の現地参加、概要集、ポスター発表を申込済みであることが確認された。概要集原稿は既に送付済みであり、ポスターについては、昨年のポスターに概要集原稿の内容を新たに追加することで作成することとした。

4. 秋季大会託児室 (2022/9/12-15 実施報告：板橋 (岡山理科大担当)、大畠 (東工大担当))

岡山理科大は、実績のある業者を選定していたものの利用申請がなく開設はされなかったことが報告された。

東工大については、2家族4名の利用があり、実績のある業者に委託、問題なく無事完了したことが報告された。

5. 委員会名の変更「ダイバーシティ推進委員会」(審議)

理事会の際に長谷川副会長より、男女だけでなく留学生などの問題も広く取り扱ってはどうかということで名称変更のご提案があったことが、肥山先生より説明された。

意見交換がされ、以下のことが決定された。

- ・「ダイバーシティ推進委員会」へ名称を変更する。
- ・委員会規則については「目的および活動」について検討が必要なため、次回への継続審議とする。
- ・理事会へは、一旦、上記を報告する。
- ・併せて、委員会規則の「ネットコメンテーター」を現状の呼称の「オブザーバー」に変更する。

意見交換の内容は以下の通り。

- ・賛成。世の中の潮流というより、それ自体がよいことだと思う。
- ・名前が変更されるだけなのか、取り扱う仕事をもっと広がるのか。
 - 長谷川副会長のご意見を伺いつつ、来年度の委員長に委ねられることになると思う。
 - 国際化の問題を取り扱う場合は、委員の中に海外の方を入れて会議も英語でというようなことも予定しているか。
 - 現状、そこまでは考えていないが、海外の方を委員に入れること自体は妨げる理由はない。ただし、会議をすべて英語で行うというのは、内容的に困難。
 - 大会発表も英語発表を推奨する動きがある。そのあたりも議論していくのだろうか。
 - この委員会で決定をするものではないが、留学生が参加しやすい大会の在り方という議論は行う可能性はあると思う。
- ・研究環境などについても活動する委員会になっていくのか
 - 研究環境検討委員会と被る部分があり、今後、棲み分けが重要である。必ずしも全てのダイバーシティに関する仕事がこの委員会に集中するということはないと考えている。現状、本委員会の仕事内容が豊富であるため、その点も考慮いただきたい旨は長谷川副会長にお伝え済み。
- ・委員会名称として「D&I」「ダイバーシティ&インクルージョン」「DE&I」などの候補は検討しなくてよいか。
 - 名称として長すぎるものは避けたほうが良い。
 - インクルージョン、ダイバーシティ&インクルージョン、エクイティ&インクルージョンはまだ浸透しておらず伝わらない場合が多いと思われる。
 - 名称ではなく、委員会規則第2条の目的及び活動に記載することでどうか。
 - 伝わりやすいよう、できるだけ日本語で表現するのがよいのではないか。例えば「公正、公平で包括的な」など。

6. 2023 年予算案

資料の予算案が確認され、ICWIP への参加について板倉先生に確認し参加費の予算案を決定することとなった。また、関西科学塾の実験材料費 30,000 円を追加することとなった。それ以外の項目については変更なく申請手続きを進める。

7. 関西科学塾 (2023. 3. 18-19 のブースについて : 門、細越)

細越先生より、発表をより多くの人に見てもらおうきっかけ作りも含め、発表の前の時間帯に賛助会員によるブースを設けることになったことが説明され、関西科学塾運営側の希望としては、中高生が興味を持つような実験をぜひ行ってほしいとの説明があった。

物理学会からの人員、費用、コンテンツについて議論がされ、以下のことが決定された。

- ・委員会として毎年コンテンツを検討提案して参加する形ではなく、関西科学塾の運営に携わる委員またはオブザーバーから提案をいただき、お手伝い可能な委員が参加する。

- ・本年については以下の通り対応する。

現地参加 : 細越先生、中本先生 (服部先生にも確認中)

※阪大の学生さんにアルバイトをお願いする可能性もある。

ポスター : 夏学のポスター (ロールモデル) をひな型に、現地参加の先生の情報に書き換えて提出する。溝川先生から細越先生に夏学のポスターファイルを提供する。

予算 : 2023 年予算に実験材料費として 30,000 円を計上する。

8. 春季大会ランチョンミーティング (2023/3/22-25 (オンライン) 開催方式、テーマなど検討 : 大畠、岩崎)

資料に沿って、2023 年 3 月の春季大会でのシンポジウムのテーマ、登壇者について検討され、以下の通り決定した。

- ・苦労しながら研究をしている若い方 2 名程度に登壇してもらう。
- ・12 月の委員会で具体的なことを決定し、インフォーマルミーティングの申し込みを行う。
- ・登壇者候補、人集めのアイデアがあれば大畠先生、岩崎先生に寄せる。

検討内容は以下の通り。

- ダイバーシティでスコープするのか、男女の問題にスコープするのか。
 - 若い人（若手研究者、大学院生）に登壇者になってもらうのはどうか。30-40分で議論を深めるのは難しく、若い人にたくさん話してもらうのもなかなか難しい。若い人の考えるきっかけになってほしいので、各分野の若い人を登壇者として招けば、その周りの若い方はきてくれるのではないか。
 - 「原子核三者若手 夏の学校2022 若手の会」でポストクの経験者の話が評判が良かった。こういった話は、若手の興味を引いて聞きに来てもらえるのではないか。

- ブレイクアウトルームを活用して、発表の場と議論の場を設けたらよいのでは。
 - 参加者が少なかった場合にどちらの会場も寂しくなってしまうのではないか。

- 登壇者は男性、女性、両方いるとよいのではないか。

- 講演者が多いと一方通行で訊くだけで終わってしまう。ランチョンミーティングの時間枠であれば1-2名で、あとはブレイクアウトルームで話をするのもいいのではないか。登壇者に加え、登壇はしないけれど相談に乗る人もブレイクアウトルームにいるようにするとよい。

9. その他

委員会宛に届くイベント、アンケート等の周知依頼について、委員長判断により適宜対応することが確認された。

以上